

科目名	グローバルインターンシップ	英文表記	Global Internship		2017年3月9日		
科目コード	6022ie						
教員名: タンスリヤボン スリヨン(Tansuriyavong Suriyon)					作成		
技術職員名: —							
対象学科/専攻コース		学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	
創造システム工学専攻・情報工学コース		専2	選	学修	2単位	実習	
科目目標		<p>①実践的な技術・語学力を身につける。</p> <p>②異文化理解に必要な基礎的な素養・協調性・能力・価値観を身につける。</p> <p>③グローバルな視点で物事を考え、研究を遂行できる能力を身につける。</p> <p>【VII-A:1-3】企業活動理解→企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を総合的に判断することの重要性を理解できる。</p> <p>【VII-A:1-4】企業活動理解→企業における社会的責任を理解できる。</p> <p>【VII-A:1-5】企業活動理解→企業活動が国内外で他社(他者)とどのような関係性を持つかを理解できる。</p> <p>【VII-A:3-2】キャリアデザイン→社会経験をふまえ、企業においても自分が成長していくことが必要であることを認識できる。</p> <p>【VIII-A】:コミュニケーションスキル</p>					
総合評価		<p>①研修中のレポート40%, 研修先の評価レポート30%。</p> <p>②研修後のプレゼンテーション30%。合計60%以上を合格とする。</p>					
科目達成度目標	目標割合	科目達成度目標	達成度目標の評価方法	ルーブリック			
				理想的な到達レベル(優)	標準的な到達レベル(良)	最低限必要な到達レベル(可)	セルフチェック
	30%	① 海外での研修(大学・企業・語学研修など)を通じて実践的な技術・語学力を身につける。	海外での研修を通して学んだ実践的な技術や語学力を研修中の日誌や報告書により評価する。	研修を通して学んだ実践的な技術を研修中の日誌や報告書をすべて英語で記述できる。	研修を通して学んだ実践的な技術を研修中の日誌や報告書の半分程度を英語で記述できる。	海外での研修を通して学んだ実践的な技術を研修中の日誌や報告書に記述できる。	
	30%	② 異文化理解に必要な基礎的な素養・協調性・能力・価値観を身につける。	異文化理解や協調性等を研修先の評価および提出されたレポートにより評価する。	インターンシップ先の国の文化と日本の文化の違いを理解する上、それを乗り越えるための素養・協調性・能力・価値観を記述でき、研修先の評価からも確認できる。	インターンシップ先の国の文化と日本の文化の違いを理解する上、それを乗り越えるための素養・協調性・能力・価値観を記述できる。	インターンシップ先の国の文化と日本の文化の違いを理解し、まとめて記述できる。	
40%	③ 海外での研究・学習を通して、グローバルな視点で物事を考え、研究を遂行できる能力を身につける。	海外での研究・学習を通してグローバルな視点で物事を考え、遂行できる能力を身につけたかを派遣先の評価および報告書やプレゼンテーションをもとに判断し評価する。	海外での研究・学習を通して、グローバルな視点で物事を考えたうえで、研究を遂行できるコツをまとめて記述でき、派遣先の評価からも確認できる。	海外での研究・学習を通して、グローバルな視点で物事を考えたうえで、研究を遂行できるコツをまとめて記述できる。	海外での研究・学習を通して、グローバルな視点で物事を考え、まとめて記述できる。		

本科・専攻科 教育目標	1	2	3	4	<専攻科教育目標> (3) 専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する
	○		◎		

評価方法と評価項目および関連目標に対する評価割合

	目標との関連	定期試験	小テスト	レポート	その他(演習課題・発表・実技・成果物等)	総合評価	セルフチェック
評価項目		0	0	70	30	100	
基礎的理解	②			10		10	
応用力(実践・専門・融合)	①②③			30		30	
社会性(プレゼン・コミュニケーション・PBL)	①②③			20	30	50	
主体的・継続的学修意欲	①②③			10		10	

授業概要、方針、履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 履修を希望する学生は、科目担当教員の指導を受け、授業計画に基づいて、インターンシップを実施する。 実際の現場を体験することで、実践的語学力や専門的な技術を理解する。 海外経験を通じた異文化に対する理解を向上させ、実社会に必要な素養・協調性・能力・価値観を身につける。 学校教育と就業体験の結合により、より高いグローバル意識を育成し、自主性・創造性溢れる専門性高い人材生成を目指す。 習得した語学力や異文化理解を通じ、実社会で必要な要素・能力(企画力、計画性、実行力、労働・契約の意義、コミュニケーション能力、情報管理など)を実践レベルで身につける。1年生でも修得可とする。 授業でのコミュニケーションの一部は英語で行う。
-----------------------	--

教科書・教材	教員作成資料、インターンシップ先の大学や企業の作成資料 資料の一部は英語である。
---------------	---

授 業 計 画

週	授 業 項 目	時間	授 業 内 容	自学自習 (予習・復習) 内容	セルフ チェッ ク
1	講義内容説明・ガイダンス	1	インターンシップの意義と講義の進め方についてガイダンス		
2	インターンシップ先研究	4	企業研究、大学受け入れ先検討 【VII-A:1-3】企業活動理解→企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を総合的に判断することの重要性を理解できる。		
3	インターンシップ研修	80	1日平均8時間で、約10日間程度、海外受入機関(大学・企業)において、研修活動を実施する 【VII-A:1-4】企業活動理解→企業における社会的責任を理解できる。 【VII-A:1-5】企業活動理解→企業活動が国内外で他社(他者)とどのような関係性を持つかを理解できる。 【VII-A:3-2】キャリアデザイン→社会経験をふまえ、企業においても自分が成長していくことが必要であることを認識できる。		
4	研修後のプレゼンテーション	5	インターンシップ後の報告書作成・発表 【VIII-A】:コミュニケーションスキル		
5					
6					

7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
期末	期末試験	[0]	実施しない		
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
期末	期末試験	[0]			
学習時間合計		90	実時間	67.5	
自学自習(予習・復習)内容(学修単位における自学自習時間の保証)					標準的所用時間
① レポート(実務内容に沿ったレポート・調査・日報を課す)					各3時間×15回
②					
③					
備考欄					
(各科目個別記述) ・ この科目の主たる関連科目はメディア情報工学科科目関連図一覧表を参照のこと。 (モデルコアカリキュラム) ・ 対応するモデルコアカリキュラム(MCC)の学習到達目標、学習内容およびその到達目標を【】内の記号・番号で示す。 (航空技術者プログラム) ・ 【航】は航空技術者プログラムの対応項目であることを意味する。 (学位審査基準の要件による分類・適用) 科目区分 専門科目 A 電気電子・通信・システムに関する科目					

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。(45分＝1、90分＝2)